

NEWSLETTER

No102319

ハンドのタイプについて述べます。

ナンバーオペレーションにおける基本的なハンドのタイプは大きく分けると以下の2つです。

(1)C-1/P-1

(2)C-1/C+1//P+1/P-1

(いずれも数量ベースの比率は 1:1。ただし、比率は変更することができる。)

他に、C+1/P+1 や C+1/C-1//P-1/P+1 [それぞれ上記(1)と(2)の+/-が逆のハンド]が組合せとして可能ですが、それらはマトリックスの基本的な構造に反するハンドなので実行しません。

大きく分類すると2つですが、ストライクの数値や比率を変えると組合せの数は無限大に広がります。

10C-1/[ATM]P-1 は“C-1/P-1”タイプのハンドに属します。

皆さんの中に↓このようなハンドを実行されている方がいらっしゃると思います。

[11]10C-1 @ 7.00/[11]17P-1 @2.00/[11]25C+1 @0.50

[11]25C+1 @0.50 は“[11]10C-1 @ 1.50/[11]17P-1 @2.00”のハンドを維持するためのコストなので説明のために省きます。

[11]10C-1 @ 7.00/[11]17P-1 @1.50

上記ハンドを↓下のハンドと比べてみましょう。

[11]17C-1 @1.50/[11]17P-1 @1.50

いずれもマイナスハンドから CF(キャッシュフロー)を獲得するという点では同じです。

[11]10C-1 @ 7.00/[11]17P-1 @1.50

[11]10C-1 @ 7.00 によって 700ドルのインフロー(キャッシュの獲得)。

[11]17P-1 @1.50 によって 150ドルのインフロー(キャッシュの獲得)。

いずれもランオフさせます。

[11]の数値が 15.00 でエクスパイしたとします。

10C の $ITV = \text{MAX}(0.00, 15.00 - 10.00) = 5.00 > 0.00$

よって 10C はコンバージョンの対象になります。

このタイプの
はRMの発生
を予測する
で原則

これは分けること
できるがCFに
着目してタイプ
の管理
をする。

← CFに着目する。
同時に、ITVとOTVを
分けて見る。

ランオフとローテーションを
前提にしている。

コンバージョンによる
CFを別に管理する。